科目名	ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論Ⅱ	NSP12__001	必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
岩淵　正博　他	410	masahiro.iwabuchi		火・木曜日 12:10～13:00	

授業の目的・概要	本科目では、環境調整技術、食事援助技術、排泄援助技術、活動・休息援助技術に焦点を当てて、看護実践に必要な基本的知識と科学的根拠に基づき、対象者のニーズに基づいた援助を行うための知識・技術・態度を学修する。看護技術は人を対象とするものであり、学生が自己の健康や日常生活における体験も活かし、対象の生活機能のアセスメントによりニーズを把握し、科学的根拠に基づいた看護技術を実施する。さらに看護実施による対象への影響を文献的・体験的に理解しながら、患者にとって安全・安楽で正確・確実な技術を修得することを目指す。
授業形式・方法	☑対面授業　☑講義　☑演習　□PBL　□反転授業　□ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ・ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ □遠隔授業（双方向型）　□実習　□実技　☑ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ　☑ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ　□実習・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ □遠隔授業（自主学習）　□その他　（　　）
学習上の助言	1.生活援助技術は、人間の日常生活行動がどのような心身の機能を使っているかを理解した上での学習となる。各単元で必要な人体構造機能学、生化学、人間関係論等の復習を行い授業に臨んでほしい。 2.不明点や疑問点はそのままにせず、授業内の意思表示や教員への質問等をすることで解決するよう主体的に取り組んでほしい。また自己練習により技術の修得に取り組むことを望みます。
教科書	看護がみえる　基礎看護技術 vol.1（第2版）/編:医療情報研究所 /メディックメディア /2024
参考書	
外部教材	動画教材など、授業時に提示する。

	学生が達成すべき行動目標	関連卒業認定・学位授与方針
①	看護技術実施における倫理的判断と対象者の権利擁護の大切さを説明できる。	NS(1)(3)
②	日常生活援助技術の根拠と方法について説明できる。	NS(1)(3)
③	日常生活援助において、根拠ふまえた基本技術を実践できる。	NS(1)(3)
④	実施した看護技術について患者役学生の反応から振り返り記述できる。	NS(1)(3)
⑤	援助技術に習熟するよう取り組む姿勢を示すことができる。	NS(1)～(5)

授　業　計　画

回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間（時間）	
1	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術 ・環境とは、人間にとっての環境の意味　睡眠　サーカディアンリズム	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1
2	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術 （臥床患者のシーツ交換、体位、体位変換、ボディメカニクス）	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1
3 4	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術 （演習：体位、体位変換、ボディメカニクス 臥床患者のシーツ交換）	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2
5 6	移動を助けるために必要なエビデンスと技術 （演習：移動・移送，車椅子・ストレッチャー）	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2
7 8	飲食を助けるために必要なエビデンスと技術 排泄を助けるために必要なエビデンスと技術	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2
9 10	適切な飲食を助けるために必要なエビデンスと技術 （演習：飲食の援助）	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2
11 12	排泄を助けるために必要なエビデンスと技術 ・排泄のアセスメント・自然な排便を促すためのケア、排泄の介助	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2
13 14	事例を用いた援助技術の実施・グループ発表 ＊各グループで事例に対する援助を実演する。	演習	事前課題：この授業までに各自オープンベッドの作成技術の確認を得ておくこと。 事後課題に取り組む。	2
15	まとめ	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1
試	筆記試験、技術試験			

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

達成度評価

総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
		50	20	10	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	50	10	0	0	10	70
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	10	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0

評価のポイント				フィードバックの方法
評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	
試験	①		・授業中に講義した内容の理解度および知識の定着について、学期末に定期試験を実施して評価する。 ・形式は、記述式、選択式の混合である。	試験終了後に、試験の解説を行い、学生の質問に答える。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
レポート	①	✓	単元ごとに学習課題を提示する。課題レポートの提出状況と内容により評価する。 演習終了時には、演習の課題を提示する。	演習時にレポートを活用できるようにする。 演習後にレポートを提出し、コメントを記入する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
成果発表	①		事例を用いた援助技術の実施・グループ発表における成果を評価する。	授業時間内で評価をコメントする。
	②			
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
その他	①	✓	演習時の身だしなみ、取り組み姿勢、授業の遅刻、授業態度を評価する。	授業時に評価をコメントする。
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤	✓		

備　考

他担当教員	小石川好美、山崎さやか
教員の実務経験	科目責任者は、看護師として 40 年の臨床経験を有し、臨床実践と学問的な知識、技術を併せて教授する
実践的授業の内容	すべての看護技術は目的と根拠、患者への影響を踏まえて行うこと、そのための知識と技術の習得状況を確認しながら授業を進める。演習では患者役看護師役とで実施後の振り返りを丁寧に行い、技術の習熟に活かすことを大事にする。
その他	・課題等の提出は期日を厳守すること。 ・講義や演習での知識技術の習得、課題の作成などすべてが臨地実習での患者への援助につながるため、積極的かつ真摯に取り組むこと。 ・今後の状況など社会情勢によって、シラバスの変更を行う可能性がある。